

# 日本の未来予想について

## 参考資料2

	2030年	2040年	2050年
人口	<p>☆総人口は1億2千万人を下回り、65歳以上の高齢者が人口の3割を占める。</p> <p>☆全ての都道府県で2030年以後の総人口が減少する。</p> <p>☆2025年からは全都道府県で15-64歳人口（生産年齢人口）は減少する。</p>	<p>☆高齢者数がピークを迎える。75歳以上人口が総人口の20%を占める。</p> <p>▲まちが消えていく（「消滅可能性都市」）</p> <p>2040年までに半数以上の自治体で、20歳から39歳までの女性の人口が5割以上減少。</p> <p>☆単身世帯が全体の4割を占める。</p>	<p>■日本の平均寿命が男性84.02歳、女性90.40歳になる。</p> <p>■日本の65歳以上人口（高齢者）が、総人口の39.1%になる。</p> <p>☆2053年には、日本の総人口が1億人を割り込む。（2050年の茨城県の人口は約210万人（H30社人研推計））</p>
社会・経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症患者が全国で800万人を超える（厚生労働省）</li> <li>・リニア中央新幹線（品川・名古屋）開通（2027年）</li> <li>・札幌までの北海道新幹線開通（2031年）</li> <li>・訪日外国人旅行者 6000万人（政府目標）</li> <li>・水素発電の商用化。FCVが全国で80万台以上、水素ステーションは900箇所以上設置。（政府目標）</li> </ul> <p>●健康寿命の延伸</p> <p>団塊の世代が全て75歳以上となる2025年には、ビッグデータ・AIなど技術革新を最大限活用し、最適な健康管理と診療、自立支援に軸足を置いた介護など、「新しい健康・医療・介護システム」が確立している。健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会が実現している。</p>	<p>▲119番は有料制に【救急・消防】</p> <p>高齢化が進むとともに、医療需要は増加。これまでのような医療サービスが維持されなくなる。</p> <p>▲定年制度がなくなる【働き方】</p> <p>引退をできるかぎり遅らせて豊かな老後を目指す生き方が今後、ビジネスパーソンの中に定着する。</p> <p>▲明治維新並みの抜本的改革【生産性】</p> <p>生産年齢人口が激減し、付加価値を高めて若い人の給料を増加。</p> <p>▲外国人労働者が来ない【移民】</p> <p>労働力の供給元となっているアジアの経済成長により、今後賃金格差が縮小し、日本に出稼ぎするメリットは年々薄れる。</p> <p>▲水道料金は6割上がる【インフラ】</p> <p>全国津々浦々に張り巡らされた道路や上下水道などの公共インフラは維持・更新費用を賄えず、朽ち果てるに任せる自体も想定される。</p> <p>→日本政策投資銀行のシミュレーションでは、赤字転換を回避するには、水道料金の6割以上の値上げが必要。</p> <p>▲学校ゼロ自治体が発生【義務教育】</p> <p>存続する学校は都市部に多く、地方を中心に、学校がゼロとなる自治体は小学校で846、中学校で986発生する。先生は「テレビ」という教室も。</p> <p>▲町村議員がいなくなる【議会】</p> <p>報酬低く、現役世代が敬遠。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■世界のエネルギー使用量が2010年比で80%増となる。</li> <li>■温室効果ガスの排出量が2010年比で50%増となる。</li> <li>■世界平均気温が産業革命前と比べ3~6℃上昇する。</li> <li>■世界の経済規模が2016年の2倍超となる。</li> <li>■日本のGDPは第8位になる（2016年は第4位）</li> </ul> <p>◎2050年時点での世界人口を養うために要する食糧生産量を2000年と比較すると、1.55倍必要となり、日本が世界的な食糧争奪戦に巻き込まれる。</p>
テクノロジー	<p>●建設現場の生産性向上</p> <p>ICT・ロボット・センサー等を活用し、道路、橋、ダムといったあらゆる建設現場の生産性が向上（2025年度までに2割）。人手不足等に悩むことなく、適切なインフラの整備・管理が浸透している。建設現場の労働環境も改善し、より魅力的な職場へ変化。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転レベル4、5に到達</li> </ul> <p>運転席が無人の状態でも運転可能な段階に到達。また、自動運転車が全世界の新車の1割を占める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カーシェアリングが進み、交通システムが変化する。</li> </ul>	<p>▲AIが結婚、就職を決める【キャリア】</p> <p>AI（人工知能）が個人の信用力や嗜好を分析し、就職先や結婚相手を決めるようになる。</p> <p>▲介護の担い手不足が解消【介護】</p> <p>2040年には介護ロボットが多くの介護現場で実用化されている。</p> <p>▲テクノロジーが日本を再興する【テクノロジー】</p> <p>◎人口減はチャンス。教育にリソースを割き、生産性を何倍も生み出す。</p> <p>◎テクノロジーで解決しようとするマインドセットが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIが人間の知性を超えるシンギュラリティ（技術特異点）に到達（2045年）</li> <li>■地球と宇宙をつなぐ「宇宙エレベーター」が実現する</li> <li>■脳に埋め込まれたチップによる無線通信が可能になる</li> <li>■記憶を消すことができるようになる</li> <li>■富裕層は子供の遺伝子構造を選択できるようになる</li> </ul>

●未来投資戦略2017-Society5.0の実現に向けた改革- (H29.6.9 閣議決定)

◎未来の年表（河合雅司）

■総務省 ICT分野における技術戦略検討会（第2回 H30.1.16 配付資料）

☆日本の将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

▲週刊東洋経済 2018 4/7 特集20年後ニッポンの難題